

UMN: SOAP を書こう. 大村和弘, 川村哲也, 武田聡編. 専門医が教える研修医のための診療基本手技. 東京: 医学書院, 2018. p.21-2.

- 5) 大野岩男, G. 痛風・高尿酸血症 48. 健診で指摘された高尿酸血症にどのように対処しますか? 深川雅史(東海大)監修, 鈴木敦詞(藤田保健衛生大)編. 内分泌・脂質・尿酸コンサルト: こんな時どうすれば!? 京都: 金芳堂, 2018. p.328-33.

V. その他

- 1) 三浦靖彦. STEP3: 患者自身の意思を推定する. 平成30年度厚生労働省委託事業 人生の最終段階における医療体制整備事業 患者の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会. 東京, 10月.
- 2) 大野岩男. 痛風腎. 第29回痛風研修会. 東京, 9月.
- 3) Okabayashi Y, Tsuboi N, Nakaosa N, Haruhara K, Kanzaki G, Koike K, Shimizu A, Fukui A, Okonogi H, Miyazaki Y, Kawamura T, Ogura M, Shimizu A, Yokoo T. A case of hepatic glomerulosclerosis with monoclonal IgA1- κ deposits. Case Rep Nephrol 2018; 2018; 4748357.

精神医学講座

講座担当教授:	繁田 雅弘	老年精神医学
教 授:	伊藤 洋	精神生理学, 睡眠学
教 授:	中村 敬	精神病理学, 森田療法
教 授:	宮田 久嗣	精神薬理学, 薬物依存
教 授:	須江 洋成	臨床脳波学, てんかん学
准 教 授:	忽滑谷和孝	総合病院精神医学
准 教 授:	山寺 亘	精神生理学, 睡眠学
准 教 授:	小曾根基裕	精神生理学, 睡眠学
准 教 授:	小野 和哉	精神病理学, 児童精神医学
准 教 授:	塩路理恵子	精神病理学, 森田療法
准 教 授:	舘野 歩	森田療法, 比較精神療法
准 教 授:	古賀聖名子	精神薬理学, 質的心理学
准 教 授:	鬼頭 伸輔	精神生理学
講 師:	伊藤 達彦	総合病院精神医学, 精神腫瘍学
講 師:	川上 正憲	精神病理学, 森田療法
講 師:	品川俊一郎	老年精神医学
講 師:	小高 文聰	精神薬理学, 神経画像学

教育・研究概要

I. 老年精神医学研究会

老年精神医学研究会では, 老年期の疾患を通じて精神症状のメカニズムの解明と病態モデルの構築を目指すこと, そしてそれらを治療戦略に応用し, 患者と社会に還元することを目的として, 基礎研究と臨床研究を行っている。本学ウイルス学講座との共同研究としてDNAメチル化を指標とした認知症のバイオマーカーの研究を継続している。また, 前頭側頭葉変性症の早期診断法開発および自然歴に影響する臨床・遺伝因子の探索に関する多施設共同研究, そして認知症者等へのニーズ調査に基づいた「予防からはじまる原因疾患別のBPSD包括的・実践的治療指針」の作成と検証のための共同研究を継続している。軽度認知障害および軽度アルツハイマー病患者における認知症の行動・心理症状と関連因子の後

方視的調査を、また内科学講座（糖尿病・代謝・内分泌内科）と協同で認知機能障害を有する老年期糖尿病患者に対する治療方針の妥当性の検討の研究を継続している。また、放射線医学総合研究所において変性疾患や精神症状のタウイメージングに関する研究を継続して行っている。

II. 森田療法研究会

森田療法を立脚点にした精神病理学的・精神療法的研究を継続している。日本精神神経学会・精神療法委員会との事業として、若手精神科医に向けた基本的な面接技法の研修プログラム・教材を他学派の精神療法家と共同で開発している。また、日本森田療法学会との事業として、外来治療の効果研究を推進した。入院森田療法を実施した強迫症患者に対する自閉スペクトラム傾向が治療効果へ与える要因について研究を継続している。高齢者の患者に対する森田療法の応用について、入院森田療法におけるうつ病の回復要因についても研究を進めている。

III. 薬理生化学研究会

薬理生化学研究会は、基礎研究と臨床研究の両面から研究を行っている。基礎研究においては、専修大学大学院文学研究科心理学部門との共同研究で、薬物依存の動物モデルを用いて、薬物の欲求を一次性強化（報酬効果）と二次性強化（連合学習）の観点から検討する研究を行った。

臨床研究においては、AMEDの研究において「ギャンブル障害に併存する精神疾患に関する研究」と「医薬品開発における薬物依存性試験のあり方：臨床試験のガイドライン作成」を行った。文部科学省科学研究費助成事業若手研究により、統合失調症患者を対象とし、リスベリドン血漿中濃度から推定した脳内ドパミン D2/3 受容体占有率と安静時機能的 MRI (rs-fMRI) を用いた salience network の脳領域間の機能的結合の関係を研究し、一定の結果を得た。2018 年度より、神経画像領域の精神医学分野への臨床応用研究を進めている。まず、放射線医学講座と共同で老年期うつ病患者に対し、MRI を用いた動脈スピラベリング法 (ASL) と脳血流 SPECT (99mTc-ECD) による脳血流量の比較を行い、ASL の精神医学への診断的な応用可能性について研究を開始した。また、ニューロモデュレーション研究会および放射線医学講座と共同で、反復経頭蓋磁気刺激 (rTMS) 前後の rs-fMRI による機能的結合の変化および ASL による脳血流量の変化を比較することにより、治療標的となる脳領域の事

前探索を行うための研究を開始した。

IV. 臨床脳波学研究会

脳神経外科、小児科、精神神経科、神経内科のてんかん診療グループによる集まりは症例検討を中心に毎月定期的に行われている。診断苦慮例、治療困難例、手術適応の検討などが中心となるが、画像検査、脳波検査において特殊なケースが多く、各科それぞれの視点から意見が出て精神科医としては刺激されることが多い。昨年、上申したてんかんセンター化に向けたワーキンググループ (WG) は、2018 年 4 月より計 6 回を行った。年末には答申を行ったが、正式な立ち上げにはもう少しばかり時間がかかりそうである。てんかんは、小児期の特殊性、成人での社会的問題、高齢者では発作の特異性など、ライフサイクルによって考慮すべきことは多く、慢性疾患ということもあって長期的なケアが必要である。包括的医療が望まれる疾患であるが、センター化によって他科との連携、他の医療機関との連携はよりスムーズになると期待される。

V. 精神生理学研究会

本研究班は、脳波、心電図、筋電図、眼球運動、呼吸運動などの精神生理学的指標からなる終夜睡眠ポリグラフ (polysomnography) を、精神医学研究の主な方法論とする。精神生理学に加えて、概日リズム研究としての時間生物学、そして、睡眠学 (Somnology) を立脚点とする。睡眠学は、1. 睡眠科学、2. 睡眠医歯薬学、3. 睡眠社会学から構成されるため、精神医学が生物学的・心理学的・社会的側面を有するのと同様に、広範な研究対象および手法が存在する。本年度は、昨年度に引き続き、各種研究補助金を受けて、当講座各研究会、本学他講座や他学と連携して、以下の研究テーマに沿って研究活動が継続された。その成果は、国内外の学会で報告され、専門雑誌に掲載されている。

VI. ニューロモデュレーション研究会

ニューロモデュレーション (neuromodulation) とは、電気刺激や薬物投与によって神経機能を修飾し、症状を緩和させることをいう。研究会のミッションは、おもに電気刺激による侵襲性の低い rTMS を選択し、国内外の企業と連携しながら、アンメットニーズに応じた医療機器開発およびレギュラトリーサイエンス研究を推進することである。

Ⅶ. 総合病院精神医学研究会

本研究会では毎月1度、本院にて研究会を継続して開催し、うつ病再発予防教室、緩和ケア、コンサルテーション・リエゾンの3つの領域を柱として、研究を進めている。

うつ病再発予防教室では、柏病院の外來にて各施設2クール開催を継続して実施している。緩和ケアに関しては、ミーティング、回診を行い、また年2回の緩和ケア研修会開催の協力をした。本院および柏病院は地域がん診療連携拠点病院に指定されていることで、相談支援を積極的に取り組んでいる。コンサルテーション・リエゾン領域では、精神科リエゾンチームのリーダーとして心理士と定期的活動を行っている。研究会のメンバーが多く所属する柏病院では、地域住民の高齢化より高齢者の受診が増えている。

Ⅷ. 精神病理・精神療法・児童精神医学研究会

2018年度は、研究会をオープンな研究会として3回開催した。いずれも、研究会メンバー、11E病棟および精神科外來看護師、臨床心理士、レジデントが参加し、毎回おおよそ20名前後の参加者であった。質疑応答も活発に行われ、大変好評であった。今後もこうしたオープンな研究会を開催し、研鑽を積んでいく所存である。

Ⅸ. 臨床心理学研究会

毎月に定例の研究会を開き、心理テスト・心理療法のケース検討や研究活動の報告を行い、精神医学・心理学についての見識を深め、互いに臨床心理士としての研鑽を積んで来た。

本年度で第28回目となる「心理臨床の集い」は2018年6月15日に開催した。今回は包括的システムロールシャッハ学会顧問の中村紀子先生をお招きして、「治療的アセスメント」についてご講義頂いた。中村先生が、ご自身のTherapeutic Assessmentの治療場面を動画で視聴する機会を提供して下さった。熟練したセラピストの治療の詳細を見られることなど滅多にない。レアなケースでもあり、非常に興味深く貴重な体験となった。心理検査のフィードバックのノウハウについても学ぶ所が多く、早速臨床の現場で役立てている。

「点検・評価」

2018年度においても、9部門の研究会からなる研究活動を行い、基礎研究から臨床研究まで幅広い方法論で研究活動を行った。このことは、神経科学

から精神療法まで幅広い知識が必要とされる精神科治療を実践するに際して望ましい研究体制にあるといえる。研究活動においては、従来通り、それぞれの研究会が積極的に研究費を獲得して研究を行い、活発な学会発表がなされている。しかし、原著論文、特に、学術的に権威のある国際誌などへの投稿は多いとはいえず、今後、より厳密な研究計画に基づいた独創的な研究が求められる。さらに、各研究部門での独立した研究テーマにとどまらず、教室全体として大きな研究目標を設け、基礎と臨床のジョイントした研究を計画する必要性を感じている。しかしながら、一方で医局員の減少に伴い、臨床および研究の両立が困難な状況もあり、医局として対策を考慮する必要がある。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Nagata T, Shinagawa S, Nakajima S, Mimura M, Shigeta M. Association between neuropsychiatric improvement and neurocognitive change in Alzheimer's disease: analysis of the CATIE-AD study. *J Alzheimers Dis* 2018; 66(1): 139-48.
- 2) Nagata T, Nakajima S, Shinagawa S, Noda Y, Mimura M. Pharmacotherapy for Alzheimer's disease: a perspective on treatment strategies in Japan. *Expert Opin Pharmacother* 2018; 19(12): 1301-3.
- 3) Inamura K, Shinagawa S, Tsuneizumi Y, Nagata T, Tagai K, Nukariya K, Shigeta M. Sex differences in the severity of neuropsychiatric symptoms and their relationship with clinico-demographic and psychosocial factors in patients with amnesic mild cognitive impairment and mild Alzheimer's disease. *Aging Ment Health* 2018 Dec 27. [Epub ahead of print]
- 4) 中村 敬. 現代社会VS精神病理学「現代的な抑うつ」は、どこから来て、どこに行くのか. *臨精病理* 2018; 39(1): 71-80.
- 5) 鬼頭伸輔. 【エビデンスに基づく経頭蓋磁気刺激(TMS)治療】うつ病に対する経頭蓋磁気刺激(TMS). *Jpn J Rehabil Med* 2019; 56(1): 38-43.
- 6) 川上正憲. 社交不安障害(対人恐怖)をめぐる一考察 生活史に心的外傷性エピソードを認める2症例について. *精神誌* 2018; 120(11): 997-1004.

II. 総 説

- 1) 繁田雅弘. 【認知症超早期診断時代に求められる医療】アルツハイマー病超早期診断がもたらす課題 アミロイドPET検査の結果開示を題材として. *老年精医誌* 2018; 29(5): 473-8.

- 2) 繁田雅弘, 稲村圭亮. 【認知症の診断と治療入門】認知症疾患における精神療法. 精神科治療 2018; 33(10): 1185-90.
- 3) 中村 敬. 【薬物療法は精神療法の治療効果に寄与するか】薬物療法と森田療法をどのように併用すべきか. 臨精薬理 2018; 21(5): 627-32.
- 4) 山寺 亘. 慢性不眠症治療のストラテジー 心身疾患における不眠症の特徴と対応 併存不眠症に対する個人認知行動療法の試み. 心身医 2018; 58(7): 606-11.
- 5) 館野 歩. 【強迫の臨床と治療】強迫スペクトラム障害と森田療法. 精神科 2018; 32(6): 539-43.
- 6) 鬼頭伸輔. 【多様化するうつ病治療の選択肢と薬物療法の位置付け】うつ病に対するrTMSの現状と実施の注意点. 臨精薬理 2018; 21(7): 925-30.
- 7) 稲村圭亮, 繁田雅弘. 【軽度認知障害】軽度認知障害の臨床尺度 手段的ADLを中心に. 臨精医 2018; 47(12): 1367-72.
- 8) 松田勇紀, 鬼頭伸輔. 【老年精神医学分野におけるNeuromodulation】老年期うつ病に対する反復経頭蓋磁気刺激(rTMS)療法. 老年精医誌 2018; 29(12): 1266-72.
- 9) 互 健二, 繁田雅弘. 【精神疾患発症・重症化の予防はどこまでできるのか】認知症. 精神 2018; 32(4): 328-32.
- 10) 山崎龍一, 鬼頭伸輔. 【反復経頭蓋磁気刺激法(rTMS)と精神科診療】うつ病以外の精神疾患に対するrTMS. 臨精医 2018; 47(8): 869-75.
- 11) 山崎龍一, 鬼頭伸輔. 【反復経頭蓋磁気刺激法(rTMS)と精神科診療】うつ病以外の精神疾患に対するrTMS. 臨精医 2018; 47(8): 869-75.
- 12) 品川俊一郎. (シンポジウム 21: 精神神経疾患における加齢性変化の生理と病理) 認知予備脳は, アルツハイマー病の病態機序にどのように影響するのか? 第114回日本精神神経学会. 神戸, 6月.
- 13) 品川俊一郎. (シンポジウム 1: 前頭側頭型認知症とその関連疾患の診断を正しくするには: 臨床から病理まで) 意味性認知症の診断をめぐる諸問題. 第33回日本老年精神医学会. 福島, 6月.
- 14) 稲村圭亮. (シンポジウム 6: 認知症の人の疾患・病態別ケア) 疾患・病態の鑑別診断はどのようになされるのか: 認知症診断の際に気を付けるべきこと. 第19回日本認知症ケア学会. 新潟, 6月.
- 15) 山寺 亘. (共催シンポジウム 1: 睡眠薬の適正使用~減薬・休薬について考える~) 睡眠薬減量と認知行動療法について. 日本睡眠学会第43回定期学術集会. 札幌, 7月.
- 16) 小曾根基裕. (シンポジウム 12: 高齢者の睡眠における加齢・器質的要因) 高齢者(認知症を含む)に対する睡眠指導. 日本睡眠学会第43回定期学術集会. 札幌, 7月.
- 17) 小曾根基裕. (シンポジウム 25: Cyclic Alternating Pattern (CAP) 法を用いた新たな基礎的・臨床的研究の展開) Cyclic Alternating Pattern (CAP) 法とは. 日本睡眠学会第43回定期学術集会. 札幌, 7月.
- 18) 鬼頭伸輔. (教育講演 5) うつ病への反復経頭蓋磁気刺激療法(rTMS). 第15回日本うつ病学会総会. 東京, 7月.
- 19) 品川俊一郎. (地区推薦講演 1) 前頭側頭型認知症の診断を巡る諸問題. 第32回老年期認知症研究会. 東京, 7月.
- 20) Tagai K, Shimada H, Kitamura S, Takahata K, Kubota M, Takado Y, Shinotoh H, Nakano Y, Ishii T, Hirano S, Shigeta M, Suhara T, Higuchi M. Tau accumulation predicts progression of dementia in subjects with early Alzheimer's disease spectrum: a [¹¹C] PBB3 PET study. Alzheimer's Imaging Consortium. Chicago, July.
- 21) Tateno A. (International Roundtable for the Advancement of Morita Therapy) [Accepting reality as it is] Described by patients who experienced inpatient Morita Therapy. 第36回日本森田療法学会. 東京, 8月.
- 22) Matsuda Y, Kito S. (Symposium 13: Translational research of TMS-induced cognitive modulation) Deep TMS modulates mood and cognitive function in patients with mood disorder. 第40回日本生物学的精神医学会・第61回日本神経化学学会大会合同年会. 神戸, 9月.

III. 学会発表

- 1) 中村 敬. (特別講演) 10分間の日常診療で森田療法をどう実施するか. 中国森田療法学会第12回学術大会. 済南, 5月.
- 2) 中村 敬. (委員会シンポジウム 3: 多剤併用を防ぐために考えなくてはならないこと) 多剤併用を防ぐために考えるべきこと-精神療法の立場から. 第114回日本精神神経学会学術総会. 神戸, 6月.
- 3) 中村 敬. (委員会シンポジウム 2: 精神科臨床における診断と見立て) <診断>と<見立て>は何が違うのか. 第114回日本精神神経学会学術総会. 神戸, 6月.
- 4) 山寺 亘. (シンポジウム 5: 睡眠医療が心身医学に貢献するために必要なダイナミズム) 不眠症が不眠障害になっても変わらないこと-併存不眠症に対する個人認知行動療法の治療効果を主として-. 第59回日本心身医学会総会ならびに学術講演会. 名古屋, 6月.
- 5) 鬼頭伸輔. (委員会シンポジウム 11: 反復経頭蓋磁気刺激療法(rTMS)の適正使用指針について) 適正使用指針(実施施設基準, 実施者基準など). 第114

- 17) 品川俊一郎。(シンポジウム 25: 前頭側頭葉変性症の診断からケアまで～高齢発症例も含めて～) 行動型前頭側頭型認知症の症候と鑑別診断. 第 37 回日本認知症学会学術集会. 札幌, 10 月.
- 18) Shinagawa S. (Symposium) Treatment and care of behavioural and psychological symptoms of dementia. 2018ADS (Advance Dementia Science). Beijing, Oct.
- 19) 鬼頭伸輔。(シンポジウム 5: うつ病への反復性経頭蓋磁気刺激 (rTMS) 療法) 気分障害への反復経頭蓋磁気刺激療法 (rTMS): 自施設の治療成績から. 第 7 回日本精神科医学会学術大会. 長野, 10 月.
- 20) 中村 敬。(シンポジウム 3: 故きを温ねて新しきを知る - 不安症概念の変遷と神経衰弱の今日的意味-) 神経衰弱から神経質へ - 森田理論の形成と発展. 第 11 回日本不安症学会学術大会. 岐阜, 3 月.

IV. 著 書

- 1) 中村 敬. 第 2 章: パニック障害の初診面接 診断から初期治療へ. 日本精神神経学会精神療法委員会編. エキスパートに学ぶ精神科初診面接: 臨床力向上のために. 東京: 医学書院, 2018. p.72-88.
- 2) 小曾根基裕監訳. I. 不眠症. American Academy of Sleep Medicine. 日本睡眠学会診断分類委員会訳. 睡眠障害国際分類. 第 3 版. 東京: ライフ・サイエンス, 2018. p.1-22.

小 児 科 学 講 座

講座担当教授:	井田 博幸	先天代謝異常
教 授:	大橋 十也	先天代謝異常 (遺伝子治療研究部に出向中)
教 授:	浦島 充佳	臨床疫学 (分子疫学研究部に出向中)
教 授:	和田 靖之	小児感染免疫学
教 授:	勝沼 俊雄	小児アレルギー学
教 授:	宮田 市郎	小児内分泌学
准 教 授:	加藤 陽子	小児血液腫瘍学 (輸血・細胞治療部に出向中)
准 教 授:	齋藤 義弘	小児感染免疫学
准 教 授:	小林 博司	先天代謝異常 (遺伝子治療研究部に出向中)
准 教 授:	田知本 寛	小児アレルギー学
講 師:	秋山 政晴	小児血液腫瘍学
講 師:	高畠 典子	小児消化器
講 師:	小林 正久	先天代謝異常・新生児学
講 師:	田嶋 朝子	小児内分泌学
講 師:	菊池健二郎	小児神経学
講 師:	日暮 憲道	小児神経学
講 師:	平野 大志	小児腎臓病学
講 師:	櫻井 謙	先天代謝異常

教育・研究概要

I. 代謝研究班

本年度も引き続きライソゾーム病の遺伝子治療に関する研究を行った。メインテーマであるムコ多糖症Ⅱ型の造血幹細胞を標的とするレンチウイルスベクターを用いた遺伝子治療法の開発は、AMEDの資金提供を受け臨床研究に向けて順調に進んでいる。昨年度は3種のベクターを用い、ムコ多糖症Ⅱ型モデル脳への効果を検討したが、今年度は最適なベクターの選択を行ない、非臨床試験用のベクター産生を開始した。同時にヒト造血幹細胞への遺伝子導入方法の最適化に関する検討を開始した。アデノ随伴ウイルスベクターを用いたムコ多糖症Ⅱ型モデルマウスの遺伝子治療研究では、末梢からの投与が脳にも有効であることを明らかにした。さらに科研費も新たに獲得し、遺伝子治療開発対象疾患をGM1ガングリオシドーシスへも広げた。また、ファブリー病のAI技術を用いた研究を開始した。

II. 神経研究班

基礎研究では、高解像度小動物用MRIを用いてドラベ症候群モデルラットの脳機能特性を解析し、